松嶋夜話　巻之下　０とーと２

[原文]松島夜話巻之下
[訓読]松島夜話巻の下

[原文]松島瑞巌沙門天嶺著
[訓読]松島瑞巌沙門天嶺著

[原文]或問世稱中峯和尚座右銘
[訓読]或ひと問ふ、世に中峯和尚の座右の銘を稱す
※中峰明本…中国の元代の禅僧。諡は智覚禅師。俗姓は孫。号は中峰、または幻住道人。杭州銭塘県の出身。南嶽懐譲下の第22世に当たる。

[原文]是莫見廣録中也
[訓読]是れ廣録の中に見ること莫しや
※天目中峰和尚広録（明版南北蔵の丁俊乂三帙）…元の代表的禅僧、中峰明本（1263-1323）の語録。示衆、小参、拈頌、法語、書問、仏事、偈賛、題跋のほか、「山房夜話」「信心銘闢義解」「幻住家訓」「擬寒山詩」「東語西話」その他の著作、および記箴序文、偈頌等、一代の作品を収める。

[原文]余曰未知其所出
[訓読]余曰く、未だ其の出るを知らず

[原文]非中峯大師之作者矣
[訓読]中峯大師の作るに非ざる者や

[原文]或曰是日國之知識先已銘之者乎
[訓読]或ひと曰く、是れ日國の知識先に已に銘ずる者か

[原文]後人亡其名為中峯
[訓読]後人其の名を亡して中峯と為す

[原文]博洽輩必知之
[訓読]博洽の輩必ずこれを知る

[原文]一句一讀理義逼迫
[訓読]一句一讀、義理逼迫す

[原文]懲人誡我
[訓読]人を懲らしめ、我を誡す

[原文]銘字心肝針起骨髄
[訓読]字を心肝を銘し、骨髄に針起す

[原文]誦者孰不感心乎也
[訓読]誦む者は孰れか感心せざるや

[原文]古人曰一日不吟詩口生荊棘
[訓読]古人曰く、一日詩を吟ぜずば、口に荊棘を生ず

[原文]一日不誦此銘身心立地著茀
[訓読]一日此の銘を身心立地に茀を著(つ)かん

[原文]仗書于此
[訓読]仗りて此に書す

[原文]具座右銘曰
[訓読]坐右に具う銘に曰く

[原文]末世比丘形似沙門
[訓読]末世の比丘、形沙門に似る

[原文]心無慙愧
[訓読]心に慙愧無し

[原文]身著法衣思染俗塵
[訓読]身は法衣を著け、思いは俗塵に染む

[原文]口誦經典意憶貪欲
[訓読]口に經典を誦し、意に貪欲を憶ふ

[原文]晝耽名利夜酔愛著
[訓読]晝は名利に耽し、夜は愛著に酔う

[原文]外表持戒内為密犯
[訓読]外は持戒を表し、内は密犯を為す

[原文]常營世路永忘出離
[訓読]常に世路を營んで、永く出離を忘る

[原文]偏執妄想既擲正智
[訓読]偏へに妄想を執りて、既に正智を擲つ

[原文]一道心堅固須要見性
[訓読]一つに、道心堅固にして、須らく見性を要むべし

[原文]二疑著話頭如咬生鐵
[訓読]二つには、話頭を疑著して、生鐵を咬むが如きせよ

[原文]三長坐蒲團莫脇著席
[訓読]三つには、長く蒲團に坐わり、脇に席を著くこと莫れ

[原文]四看佛祖語常自慙愧
[訓読]四には佛祖の語を看て、常に自ら慙愧せよ

[原文]五戒體清浄莫穢身心
[訓読]五には戒體清浄にして、身心穢れること莫れ

[原文]六威儀静寂莫恣暴亂
[訓読]六には威儀静寂にして、暴亂を恣いままにする莫れ

[原文]七小語低聲莫好戯笑
[訓読]七には小語は低語、戯笑を好む莫れ

[原文]八雖無人信莫受人謗
[訓読]八には人の信ずる無しと雖も、人が謗りを受ける莫れ

[原文]九常攜茗菷拂堂舍塵
[訓読]九には常に茗菷を攜さえ、堂舍塵を拂う

[原文]十道業無倦莫飽飲食
[訓読]十には道業、倦ふ無く、飲食することに飽きること莫れ

[原文]生死事大
[訓読]生死の事大なり

[原文]光陰可惜
[訓読]光陰惜しむべし

[原文]無常迅速時不待人
[訓読]無常は迅速、時、人を待たず

[原文]人身難受今既受
[訓読]人身受け難く、今既に受く

[原文]佛法難聞今既聞
[訓読]佛法聞き難く、今既に聞く

[原文]此身向今生不度更向何生度此身
[訓読]此の身、今生に向かいて度せずば、更に何の生に向かいて、此の身を度す